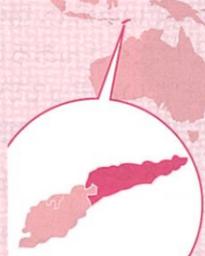




第12回 東ティモール民主共和国



埼玉県にゆかりがあり、現在県内や海外で活躍している方に出身国や現在暮らしている国の紹介をしていただくシリーズ「世界の国からこんにちは」。今回は、埼玉県国際交流協会の元職員で、現在はJICA（独立行政法人国際協力機構）の企画調査員としてご活躍の大西 孝規さんに、赴任国「東ティモール民主共和国」について、紹介していただきます。（大西さんはザンビア共和国に続き、2度目の登場です。）



ボランティア活動を視察中の大西さん（左から2番目）

東ティモールは、インドネシアに属する島々の中にあるティモール島の東半分にある国です。ちなみに島の西半分はインドネシアに属しています。この国はコーヒーの生産が大変盛んで日本にも輸出しています。みなさんもコーヒー専門店です東ティモールのコーヒーを見かけたことがあるのではないのでしょうか。日本からまっすぐ南に行ったところにある国ですので、日本と時差がありません。日本からの直行便が無いので、バリやシンガポールで乗り継がないと行けません。私はこの国で、JICAが行なうボランティア事業で派遣された方たちのお手伝いをしています。



タイスで作られた民族衣装でお出迎え

東ティモールって何語を話すの!?

東ティモールは2002年に独立したばかりのアジアで一番新しく若い国です。独立するまではポルトガルやインドネシアの植民地となっていたため、公用語は

地元の多くの人々が話すテトゥン語のほか、ポルトガル語も採用されています。またインドネシア占領時代に学校に通っていた人はインドネシア語を話しますし、海外から来る援助関係者や旅行者の多くは英語を話すので、日常ではテトゥン語、ポルトガル語、インドネシア語、英語が入り乱れています。テトゥン語は単語が少ない言語なので、多くの単語をポルトガル語から引用しています。日常会話はテトゥン語だけど、数字を数えるときはインドネシア語、学校の教科書はポルトガル語という具合にいくつも言葉を使わないと大変です。

どんなものを食べているの?

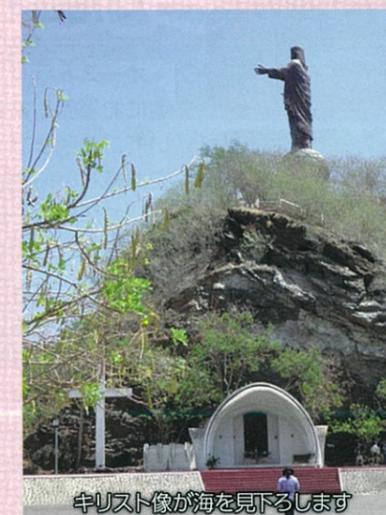
主食はお米が多いですね。カトゥッパというヤシの葉で編んだ入れ物にお米を入れてココナツミルク味のスープで炊いたちまきのようなものを食べます。普通に炊いたご飯や赤飯のようなものをあります。珍しいものといえばバナナの花の炒め物でしょうか。インドネシアやマレーシア、フィリピン、中華料理などもありますので、日本人にはなじみやすいのではないのでしょうか。海が近いので、道端で焼き魚を売っていたりします。日本のスーパーでは見ないカラフルな色の魚も焼いてあります！



カトゥッパと焼き魚、海が見える食堂で

東ティモールの見所は?

観光ガイドブックには載っていない国ですが、見所はいくつかあります。まず世界で2番目（アジアで1番！）に大きいキリスト像が見下ろすきれいな海。この国に多くの幸をもたらします。また、タイスと呼ばれる繊細な織物は、地方によってその織り方やデザインが変わっていて非常に面白いです。人々を歓迎する際に贈られるものとしてこの国ではなくてはならないものです。



キリスト像が海を見下ろします

国際フェア2018を開催しました!

10月14日(日)、恒例の国際フェア2018がさいたま新都心のさいたまスーパーアリーナで開催されました。今年も「秋の同時開催イベント」として、コープみらいフェスタ、健康フェスタ、埼玉物産観光フェアとの合同開催で、4万5千人のお客様ににぎわいました。お買い物とともに子どもも大人も楽しみながら学ぶ体験ができるイベントとしてとても人気です。

国際フェアでは35団体がブース出展し、団体の活動や世界の料理、物産などを紹介しました。ステージでは、アフリカダンスやベトナム人留学生による歌と踊りが会場を盛り上げました。また、今年は出展NGOによるワークショップスペースを設け、4団体が楽しいワークショップを開催しました。セネガル交流協会JAPANによるアフリカ楽器の演奏体験、民族フォーラムによるベ



トナム視覚障がい者のものづくりを疑似体験できるワークショップ、ギニアこころのクリニックとおむすびの会によるアフリカの端切れを使ったアクセサリー作り、AAR Japan(難民を助ける会)によるアフガニスタンの子どもの1日を通して現地の様子を学ぶお話はどれも満席で立ち見の出る回も。

食欲の秋におなかも心もいっぱいになる楽しいイベントとなりました。今年見逃してしまったみなさん、来年はぜひご家族、ご友人とお出かけください。

